

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	とくまる なつか 徳丸 夏歌	所属・職名 経済学研究科博士後期課程
e-mail		
発表題名 (英語)	F. v. Wieser' s Epistemological position and Beyond	
著者名	Natsuka Tokumaru	
会議名 (英語)	The 22nd Conference of the History of Economic Thought Society of Australia	
開催地(国、市)	オーストラリア、パース	
参加期間	2009年 7月 14日 ~ 7月 17日	
<p>私は2009年7月14日から17日まで、COEの学会発表渡航支援を得て、オーストラリア・パースで開かれたHistory of Economic Thought Society of Australia(HETSA)の年次大会で研究発表を行った。</p> <p>発表内容は、オーストリア学派第二世代で「限界効用」概念の提唱者であり、経済学・社会学に多大な功績を残したF. v. ヴィーザーが、先行者メンガーの経験主義を発展させつつ、認識論における改革を行った過程、および彼の経済学説と晩年の社会学理論との関係分析であった。本研究ではヴィーザーにおける「経験」概念が1) 言語への蓄積、2) 内観、3) 思考実験、3) 観察または方法論的動因主義の結果として解釈されうることを提示しつつ、ヴィーザーの経済理論における心理主義および方法論的動因主義が、彼の権力論を中心とする社会学理論において継承されたことを批判的に論じた。</p> <p>発表後の質疑応答では、ニューヨーク大学のデイヴィッド・ハーパー教授、オークランド大学のアンソニー・エンドレス教授、國學院大学の尾近裕幸教授など、会場から詳細なコメントと質問が寄せられ、活発な議論を行った。質問・コメント内容は、ヴィーザーの言語分析とメンガーの实在論との関係、ヴィーザーの「自然価値」概念が実際の社会現象とどのように関連するのか、ヴィーザーの社会学理論と他の論者との影響関係、などであった。その後の交流会においても、とりわけハーパー教授と意見交換を行い、また教授から貴重なアドバイスを得ることができ、学術上大変有益であった。</p> <p>また同大会の特別テーマの一つはオーストリア学派であり、その資本論や経済計算論争などについて貴重な研究発表を聞くことができた。またセッションの間に設けられた昼食やティータイム、交流を兼ねたディナーなどで、世界各国の研究者と歓談す</p>		

学会発表渡航支援報告書

ることができ、大きな刺激を受けた。総じて、HETSA 大会参加によって、国際的な学術的・人的交流を行うことができ、極めて実り多い機会であったといえる。

